

背景、目的

豊前海は海底が平坦で軟泥のため、岩礁域に生息するメバルやカサゴなどのいわゆる「根魚」はほとんど生息していませんでした。そこで根魚を増やすため、これら稚魚の餌生物が付着しやすい機能（増殖基質）を備えた増殖礁の開発に取り組みました。

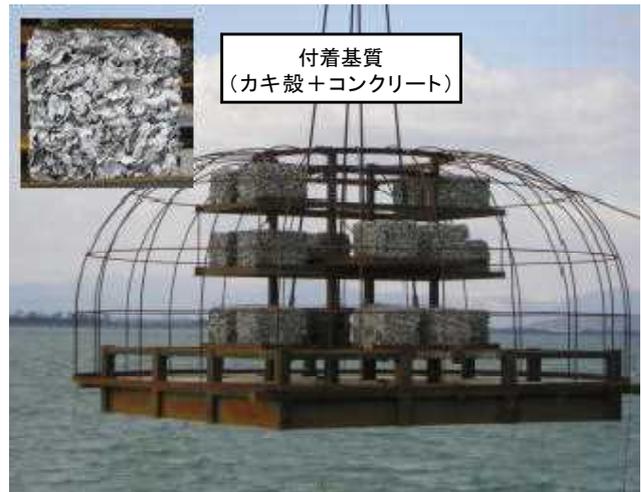
成果の概要

（１）試験礁の設置

増殖基質として、天然素材であり、かつ表面に凹凸があるカキ殻を用いた増殖礁を製作し、海底に設置しました。

（２）餌生物の増殖効果

増殖基質の付着生物を調査したところ、メバルなどの餌料となるエビ、カニやゴカイなどがみられ、増殖礁の集魚効果を高めることがわかりました。



製作した増殖礁

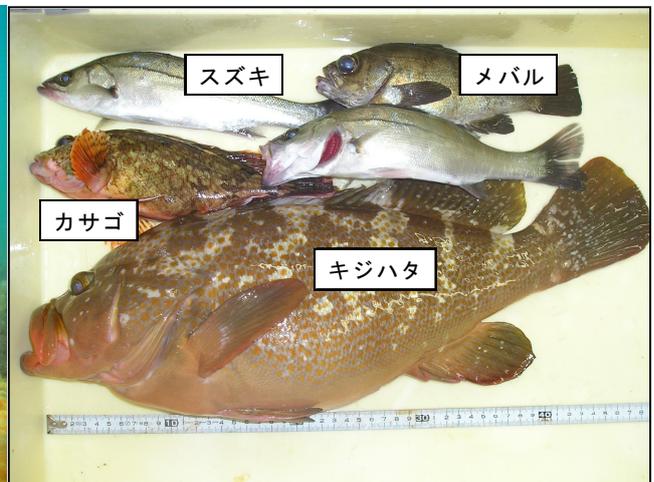
（３）有用種の集魚効果

潜水による観察では、多数のメバル稚魚やメバル・カサゴ成魚のほか、イシダイ、クロダイ、ウマヅラハギ等も確認されました。また、魚カゴによる漁獲調査では、メバル、カサゴのほかにキジハタやスズキが漁獲され、カキ殻を増殖基質として活用した増殖礁の有用性が実証されました。

この成果を活用し、豊前海では平成19年度から柄杓田地区と恒見地区で根魚の増殖場造成事業が行われ、多くの根魚の増殖がみとめられています。



増殖場に集まったメバル稚魚



魚カゴで漁獲された魚